

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂農林高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年7月8日(水) 13:30～15:30
- 3 開催場所 加茂農林高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会 長	長屋 伸人	岐阜県農業大学校 校長
副会長	春見 秀則	指導農業士 米穀農産物検査員・お米マイスター
委 員	日比野安平	美濃加茂市地域住民
	渡辺 祥二	農業生産法人代表
	酒向 光世	社会福祉法人管理職
	武田 由美	美濃加茂市教育委員・美濃加茂国際交流協会
	井戸 肇	本校同窓会長
	仲里 愛理	本校PTA副会長
学校側	金本 淳	校 長
	野村美由紀	事務部長
	安藤 耕作	教 頭
	佐藤 一喜	農場長
	長屋 貴	教務主任
	玉木 信悟	生徒指導主事
	青山 佐織	進路指導主事
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 校長挨拶
 - ・学校運営協議会の設置及び運営について
 - (2) 学校運営協議会委員の委嘱
 - (3) 自己紹介
 - (4) 会長及び副会長の選出
 - (5) 学校見学(授業参観)
 - (6) 学校経営における教育指導の重点
 - ・本校の教育目標、スクールポリシー、学校の抱える課題点
 - ・教育指導の重点、重点目標達成のための具体的方策

6 意見交換（意見・提言等）

■農業界全体の課題と人材育成について

意見 1：農業高校卒業生が農業分野への進路決定が少ないのは、学校だけの問題ではなく、大人や社会の責任でもある。改めて農業界の魅力発信や受け皿づくりが必要で、将来農業に戻ってくる人材を育てる視点も大切である。

⇒直接就農する生徒は少ないが、農業大学校や大学進学後に就農したり、農業法人等への就職も一定数ある。基礎的な農業教育を通して、将来農業に関わる人材育成を目指している。

意見 2：本校に入学して農業や命の大切さを学び、その良さを理解したにもかかわらず、農業分野への就職につながらないのはもったいない。工業系企業の給与や待遇が魅力的で流れてしまう現状がある。農業の良い面だけでなく、厳しさや苦勞も含めて伝えた上で、それでも農業に携わりたいと思えるような教育や地域との関わりが必要ではないか。

⇒就職求人は近年大幅に増加しており、工業系・製造業からの求人も多く、条件面で生徒がそちらを選ぶ傾向がある。一方で、進路指導では「まず専門学科で学んだ内容を生かせる進路を考える」ことを大切にしている。農業関係の求人そのものが少ないという課題もあるが、引き続き農業分野への関心や進路選択を促していきたい。

■地域との連携・地域に根ざした学校づくりについて

意見 3：本校の強みは地域との連携にある。プロジェクト学習や地域活動を通して生徒が大きく成長している。地域とともに学ぶ姿勢を今後も大切にしてほしい。

⇒「地域と連携・協働した学びを推進する農業高校」が学校の社会的役割である。地域を支える人材は学校だけでなく地域と一緒に育てるものと考えている。各学科で数多くの地域連携事業に取り組んでおり、それが学校の魅力や志願者増加にもつながっているため、今後も地域との連携を学校経営の柱として継続していく。

■農業教育の魅力について

意見 4：本校のスローガン「命を育み、命から学ぶ」を教育の中心に据えて、プロジェクト学習や実践的活動を通して課題解決能力を育成するとともに、科学的思考力や判断力を養い、持続可能な社会に貢献できる人材育成を目指してほしい。

■働き方改革と農業高校の教育活動について

意見 5：農業の特殊性からして、時間外勤務の削減と農業教育の両立は難しい課題である。

バランスを取りながら学校運営を進めてほしい。

⇒生き物を扱う実習や時間外の栽培、飼育管理がある中で、普通高校以上に時間管理が難しい面がある。しかし、働き方改革は重要な学校課題の一つと捉えて、教職員がやりがいを持ちながら働ける職場づくりを推進する。

■その他

意見 6：最近では将来の夢や進路目標をもっていない生徒も多い。自分の夢を描き、その実現のために何を学ぶのかを考えさせることが大切である。

意見 7：農業高校の魅力の一つは動物との触れ合いである。地域の人や子供たちが動物に触れられる機会があると良い。

意見 8：世界的な課題である「食料、環境、エネルギー」は農業教育と深く関わる。生き物を扱う農業は、単純に正解を求める世界ではなく矛盾や変化と向き合う学問である。その価値を生徒に伝えてほしい。

7 会議のまとめ

本校は、「地域とともにある学校」「命を育み、命から学ぶ教育」「地域連携による課題解決型学習」を柱としながら、生徒の進路実現や地域社会への貢献を目指して教育活動を推進していくことについて承認を得た。また、委員からは、農業の人材育成や魅力発信、働き方改革等についても意見をj得て、今後の学校運営に反映していくことを確認した。